

幼児の生活実態と保育に対する保護者の意識

○山瀬 範子 (四国大学短期大学部)

片桐 真弓 (尚絅大学短期大学部)

住田 正樹 (放送大学)

I. 問題の所在

本発表の目的は、子どもの生活実態を明らかにし、幼稚園・保育所に対して保護者が期待していることを明らかにすることにある。

『保育所保育指針解説書』では、序章の中で平成20年における保育所保育指針改定の背景として、①家庭や地域での人や自然と関わる経験の不足、②子どもの生活習慣の変化、③保護者の養育力の低下を挙げている。子どもの生活習慣は家庭生活と幼稚園・保育所での生活との連続性を通して形成されていくものである。しかしながら、家庭生活の変化などから、基本的な生活習慣の育成が不十分であったり、幼児期における生活習慣の形成の重要性を理解していない保護者も少なくない。

そこで、子どもたちが家庭でどのような生活を送り、また、保護者が保育にいかなる役割を期待しているのかを明らかにすることにした。このような作業は、子どもの生活習慣の形成にとって、家庭と幼稚園・保育所の連携のあり方、あるいは保護者支援のあり方を検討する上で有益な知見を得られるものと思われる。

II. 調査の方法

本発表において取り扱うデータは、幼稚園・保育所を利用する3～5歳児のいる家庭を対象にした質問紙調査で得られたものである。2010年11月から2011年3月にかけて、熊本県および徳島県内の幼稚園・保育所の協力を得て調査を実施した。調査方法は、園のクラス担任から、園児に調査票を配布して、保護者に記入してもらう留置法を採用した。718家庭への配布に対し有効回収票数は567票であり、回収率は79.0%である。

III. 調査結果の概要

(1) 幼児の生活の様子

起床時間は7時～8時の子どもが最も多く、ほとんどの子どもが朝食を毎朝食べている。夕食については、食事時間に幅があり、早い子どもは17時までに食事を済ませており、遅い子どもは20時以降に食べていることもある。朝食を食べる相手は、子どもだけで食事をする家庭もあったが、夕食ではそのケースは少ない。また、就寝時間は21時前後に集中していた。

(2) 幼稚園・保育所を選ぶ理由

幼稚園・保育所の選択においては大半の家庭が慎重に考えている(「よく考えた」56.7%、「まあ考えた」35.6%)。過半数の人が理由として挙げているのは、「雰囲気が良い」「たくさん遊ばせてくれる」といった全体的な印象が多く、次いで「保育内容・教育内容が良い」「先生達が信頼できる」といった園での保育内容や保育者の姿勢を重視していることが窺われる。それに加えて、「家から近い」「評判が良い」「給食がある」「施設や遊具が充実」「きょうだいが通っている」「通園バスがある」といった利便性に関連するものが続いていた。

(3) 幼稚園・保育所に期待すること

幼稚園・保育所の選択理由として重視されていたのが保育内容であったが、では、具体的に何を期待しているのだろうか。幼稚園・保育所に期待することを12項目挙げ、4件法で答えてもらった。最も期待されていたのは、「友達と仲良くする」「ルールや決まりを守る」「挨拶や礼儀を守る」といった社会性や人間関係に関連する内容であった。一方、「芸術的能力」「文字や数を教える」といった知育に関する内容はあまり期待されてはいなかった。

IV. まとめ

*詳しい資料は、発表当日に配布いたします。